

第 3683 図

らん科



によほうちどり

*Orchis joo-iokiana Makino*

日光、八ヶ岳、戸隠、南アルプス等の亜高山帯の草地に生ずる多年生草本。高さ 10-35 cm、類球形の塊根 2 個、葉は直立、1-2葉をつけ、全体淡蒼綠色、葉は線状披針形で肉質、軟かく、先端尖り基脚は鞘となる。8 月頃に茎頂に紅紫色の美花を少々偏側的につけ、その数 4-10。苞は花よりも短かいが明瞭、上部の 3 花蓋片はより添って立ち、側方片は開出し、唇弁は多肉質で四角に近い倒卵形で広く反り気味に展開し、長さ 1.5cm 位、紅点を飾り、上部で浅く切れて側片を作る。和名は女峯千鳥で、最初の産地日光女峯山を示し、種小名は城数馬氏と五百城文哉氏（日光に住んだ山草画家）を記念したもの。

第 3684 図

しやうが科



げっとう

*Alpinia speciosa K. Schum.*

九州南端、琉球から印度にまで分布する多年生常緑草本で、暖地で繊維用或は觀賞用に栽植される。叢生直立する茎は高さ 2-3m に達し、葉は紙質、2 列互生し、橢円状披針形で先端は長く鋭尖し、上面光沢強く、縁毛あり、下は長い葉鞘となり、茎を包む。夏、頂から大形の総状花序を垂下し、密に美花を開く。花は長さ 4cm 許、有柄、初め早落性の白色、強光沢ある苞につつまれ、下位子房は球形、萼は筒状で一側が裂け、花冠は 3 裂して白色に紅色を彩り、鈍頭、唇弁に対する 1 片は大形、内に唇弁があり、最も大形、舟形を呈し縁辺に歯牙あり、白に黄及び紅色の条紋がある。雄蕊は 1 個のみ完全、糸状の花柱 1 個がある。果実は倒卵球状形、長さ 2cm、赤熟し、表面に縦稜と毛とがある。和名は月桃。

第 3685 図

しやうが科



あおのくまたけらん

*Alpinia intermedia Gagnep.*

(= *A. chinensis* auct. jap. non *Roscoe*)

伊豆七島、紀伊、四国、九州などの暖地林下に生ずる多年生常緑草本。茎は高さ 1-1.5 m、葉は狭長楕円形で 2 列互生し、先端は長く鋭尖し、薄い紙質、葉柄は短かく、基部は鞘となって長く茎を包み、葉縁には細毛が疎生する。花序は 10-20cm 許茎頂に直立し、短い側枝を分って多数の白花をやや密に開く。花は長さ 2cm 許、有梗苞は緑白色、膜質早落性、下位子房は小球形、萼は黄緑色、筒状、花冠の筒部は萼を超出して先端深く 3 裂し、裂片は広線形鈍頭白色、唇弁は卵形で、先端往々不規則に 3 裂し、紅彩あり、1 雄蕊のみ完全で直立彎曲して前方に向い、葯隔厚く、下面に 2 室の葯があり、葯の間に糸状の花柱の上部を挟む。果実は球形径 1cm 許赤熟する。

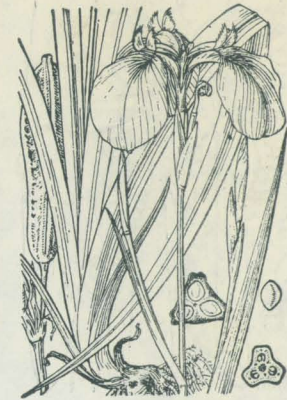
きしょうぶ

*Iris pseudoacorus L.*

歐洲原産の多年生草本で、明治 30 年頃輸入されて以来、各地の池畔、湿地で旺盛な繁殖をとげ、一見自生品の観がある。地下茎は短大でよく分枝し、葉は 2 列生、長い剣状で、脈糸は隆起し、やや軟質、巾 2-3cm 長さ時に 1m に及び、5 月頃花茎を抽いて葉間に黄花を開く。花下に大形の 2 苞があり、下位子房は円筒状緑色、外花蓋片は 3 個、大形、広卵形で先端は垂下し、基部は長い爪部をなし、内花蓋片は 3 個、小形、長楕円形で直立する。花柱は基部は細く、糸状であるが、急に拡がって 3 岐して広線形をなして開出し、各分枝は更に 2 裂して狭卵形、細鋭鋸歯のある裂片に終る。3 個の雄蕊は花柱の分枝下に接してある。蒴は多少垂下し、3 角柱状楕円形で、先端はやや尖り、後 3 裂して褐色の種子多数を出す。

第 3686 図

あやめ科



第 3687 図

すべいんあやめ

*Iris xyphium L.*

歐洲西南部及び北アフリカに自生する多年生草本。明治末年に輸入されたが、今では、これと他種との交配種オランダアヤメ *I. hollandica Hort.* が最も広く栽培される。しかしスペインアヤメに比し花、葉が大形で、早咲の点が異なるのみである。地下に淡褐色の球茎があり、葉は 2 列互生、剣状で先端細く尖り、質硬く、多少粉白で、灰青緑色を呈する。春太い花茎を抽いて葉の上に帯紫青色の 2 花をつける。下位子房は円柱形、緑色、外花蓋片の先端は円形で反曲下垂し、基部は広線形、中央に黄条があり、内花蓋片は比較的大形、倒披針形で直上又は斜上し、花柱分枝は 3 個あり広線形で、開出し、外花蓋片の基部を覆い、下に各 1 個の雄蕊を隠す。

あやめ科



第 3688 図

あさぎずいせん

一名ふりーじあ

*Freesia reflecta Klatt.*

南亞、喜望峯原産の多年生草本で觀賞用に栽培される。地下に球茎があり、狭卵形で、繊維質の外皮に包まれる。根生葉は数個 2 列生、細い剣状で先端は長く尖り、黄緑色を呈し、長さ 15-30cm、茎は円く、1-2葉がある。春、茎頂は横方に曲って側偏した花序を出し、黄褐色を帯びる白色花数個を直立し多少前向して開く。花序の軸は之字状に屈曲し、毎節に卵状鋭尖頭緑色の 2 苞があり、この間から花筒を立てる。花筒は上方は膨大し、6 個の花蓋裂片を開出する。雄蕊 3 個、雌蕊 1 個は長い白色の花柱を有し、先端 3 岐し、各分枝は更に深く 2 岐し、僅かに花蓋の上に出る。栽培される所謂フリージアは雌種性である。

あやめ科

